



photo by Takashi.M CC-BY, from Flickr

○ イワヂシャ(岩千舎)

語源

イワタバコ属 *Conandron* は、ギリシャ語の「円錐形の」(conos) + 「雄ずい」(andros)、すなわち雄ずいが集まって花柱を取り巻き、円錐形をなすことに由来する。種小名 *ramondioides* は、イワタバコ科の *Ramondia* に似ていることから。

和名 イワタバコの由来は、岩壁に生え、葉の形がタバコの葉に似ていることによる。別名 イワヂシャの「ヂシャ(萵苣)」というのは野菜のサラダ菜のことで、山菜として利用されてきたことを表している。その他の別名には、イワナ(岩菜)、タキヂシャ(滝萵苣)がある。またイワヂシャは、漢字では「岩萵苣」「岩千舎」「岩千佐」、イワタバコは「岩煙草」「岩萵」の表記がある。花が美しいため、山野草として観賞用に栽培されたりもする。

基原

Conandron ramondioides Sieb. et Zucc.
イワタバコ (イワヂシャ)

イワタバコ科 多年生草本

根茎は短く塊状、帯褐色の長毛を密生する。イワタバコ科には、他に園芸品として人気の高いセントポーリア *Saintpaulia* などがある。



薬用部分

葉または全草

晩夏から初秋にかけて、成熟した葉を採集し、陽乾する。

産地

本州～沖縄、台湾

山地の日当たりが悪く湿った滝の周辺や岩壁に群生する。

主な成分

全草から苦味配糖体のコナンドロシドのほか、アクテオシドが単離されている。

主な薬効

健胃、整腸

主な用途

民間薬や山菜料理の食材として利用されている。

【胃潰瘍の痛み、腹痛下痢、慢性胃炎、胃アトニーなど】

1日量 5～10gを水500mlに加え約半量になるまで煎じて、1日3回服用する。

【止血薬】

中国では葉の汁を傷口に塗布する止血薬として用いている。

【その他】

若葉は古くから山菜として賞味されてきた。若葉は苦味があるが、そのままか酢味噌、てんぷらなどとし、またゆでて浸し物、和え物などにすると粘り気があって美味である。

※参考文献：「牧野和漢薬草大図鑑」「漢方のくすりの事典」「日本薬草全書」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
URL: www.fukudaryu.co.jp